東北風景写真家協会会員向け会報「東風季報」第２６号です。
当会報は会の行事、活動計画、各種のお知らせ、撮影適所、撮影情報、撮影テクニックなどの記事を掲載しております。

東風季報

発 行
東北風景写真家協会
〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡3-8-1
東北カラーデュープ株式会社内
Tel 022-256-2141・Fax 022-256-2142
編集　秋葉・進藤・藤枝

平成２５年度第２回協会企画撮影会報告
千畳敷カール・上高地撮影ツアー

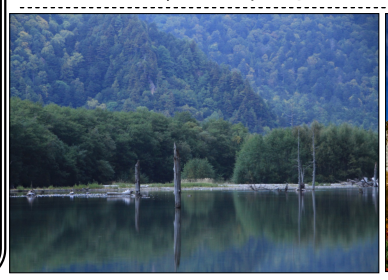
１０月１日、泉経由仙台駅西口を７時３０分出発。東北自動車道から岩船ＪＣにて北関東自動車道、関越道、上信越道、長野道、中央道と一人の運転手で運行可能な距離を守る為に竹内会長が苦労してコースを設定。途中横川ＳＡにて昼食。駒ケ根ＩＣ経由で菅の台バスセンターにてしらび平行専用バスに乗り換え、カメラ機材や鞄で車内は通路を埋め尽くした。ロープウェイで午後４時過ぎに千畳敷カールホテル到着。早速夕景撮影に出たが生憎ガスが懸って期待した夕焼けは見られず、しかしガスの懸った風景も素敵でした。

夕食を楽しんだ後の星の撮影は当初雲が広がって星は見えなかったが、遅くなって雲が取れ、皆揃ってカメラをセッティングしたらまた薄雲が広がり、諦めて部屋に戻った人もいた。０時過ぎに雲が去り満天に星が輝き、天の川も綺麗に見えて撮影開始。明け方近く迄撮った人もいた。

引き続き夜明けを撮影。東の空に雲はあったが日の出が見られ美しい雲海も出た。朝食後１０時頃まで良く晴れた千畳敷を撮影。再びロープウェイでしらび平経由菅の台バスセンターに戻り、いずみ観光に乗り換え上高地へ向かった。

上高地では河童橋傍のホテル白樺荘に宿泊。荷物を置いて各自夕景撮影に出掛けたが此方の紅葉は少し早かった。夜は雲が広がり早めに就寝。

早朝撮影は大正池から帰りながら朝食迄に戻る組とホテル周辺で撮影する組に分かれ行動。大正池は水の中に立つ枯れ木が自然現象で少なくなり、以前の風景とは違った景色になってきている。しかし、水面に鏡のように映り込んだ山や樹木は相変わらず美しい。生憎穂高連峰は雲に隠れていたが、雲も動いて山が姿を出し上手く撮影した人もいる。岳沢湿原も美しい景色が写せた。当初３０名だった募集が４０名に増え、大いに楽しめた撮影会でした。



東日本大震災復興支援チャリティーセミナー開催案内

太平洋写真学校・北上教室の早期開催に願いを込めて、写真家・清水哲朗先生も参加し昨年同様写真クリニックも開催します。

日時：平成２６年２月８日（土）～９日（日）
乗車場所：仙台駅西口　午前８時
泉区役所裏　午前８時３０分
講師：清水哲朗（特別講師）竹内　正、丸山慎一
主な予定：２／８・北上川よし原、河口等夕方の風景、写真セミナー
２／９・早朝の日の出、写真クリニック、十三浜
宿泊先：追分温泉旅館（懇親会・チャリティーオークション開催）
旅行代金２４，０００円
募集人員：３０名
募集締切：１月３１日
参加申込みは同封のチラシをご参照のうえＦＡＸにてお申込み下さい。

「写真家秦達夫～ちょいフォト見聞録」

セミナー開始前から会場には、風景、お祭り、動物、バイクなどの画像がスライドショーで流されていた。意味ありげなセミナーのタイトル「眼差しの向こうに見える風景」とどうつながるのか興味を持ちつつお話を伺った。印象に残ったいくつかを記す。

アラスカ　全魚眼による天空写真に目を見張る。オーロラは通常緑であるのに、赤いオーロラに出合いカメラに収める迄の緊迫感が伝わってくる。ビーバを捕らえて食するのも生活の一端。

カナダ　木で作られた建造物、すなわち自然に朽ち果てていくものへの思いを込めてトーテンポールを撮る。放置された車に苔むしていく様子をどう思うかは人夫々。

ニュラージンド　日本列島と天候も似ているが、ウントクックは富士山と同じぐらいの高さ。紅葉はなく、黄葉となる。天候が変わる時、むしろ写真のチャンスであり、虹に出合うのもこんな時。

尾瀬　時間がとれると尾瀬に行く。雪の重みで折れても上に向かって伸びようとする奇形ブナに出会う。思いがけずの雪に苦闘して三条の滝を往復。絞りを変えてゴースの大きさを加減して利用してみるのも面白い。

霜月祭り　秦氏の故郷長野のお祭りでは、熱いお湯をかけあう中に自身入り込んで撮影中火傷したことも。集中すると手持ちで１秒のシャッターを切ることも可能で、動感ある写真を示された。

屋久島　長く通い続けておられるこの島については、以前のセミナーで詳しく伺っている。また、写真集「山岳島　屋久島」に纏められている。日本初の世界自然遺産となった屋久島は北海道から九州に相当する植生。雨が多く沢そして滝となる。場所を研究し天気の動きを読むと珍しい自然現象に出合う確率も上がる。ブロッケンや満天の星も見応えがある。

東北あ・ら・かると　今年は特に紅葉が綺麗だった浄土平、八甲田、蔦沼、白神山地の滝、青池、そして蔵王など私どもにも馴染みの深い風景を拝見。撮る目的によってその写真の価値も変わってくる。風景も祭りもその背景や関連を調べることにより、表面に見える写真を越えた意義を持ち、価値あるものになる。柔軟な発想で楽しんでいけば、夫々の眼差しの向こうに何かが見えてくる。（秋葉健一記）

大観山と箱根からの富士山撮影ツアー案内

昨年の富士山撮影ツアーと同じ内容で再び企画されます。箱根の宿泊先が変るだけで後は同じ。

旅行期間は平成２６年２月３日（月）～５日（水）の２泊３日。
旅行代金４９，８００円
募集人員４０名（最少催行人数３０名）定員になり次第締め切り。
食事は朝食・夕食各２回
昼食１回、
宿泊先
１泊目箱根湯ノ花温泉ホテル（３～４名１室）
２泊目休暇村富士（３～５名１室）
集合場所　泉区役所駐車場　午前６時４０分
仙台駅西口７時２０分
撮影ポイント
①大観山からの富士山
②芦ノ湖早朝の富士山
③芦ノ湖スカイライン・乙女峠からの富士山
④山中湖からのダイヤモンド富士
⑤田貫湖星空と早朝撮影
⑥本栖湖・精進湖の富士と多彩な景色です。
申込先（土・日・祝休）
河北新報トラベル
TEL・022-211-6960
同封のチラシ参照

第８回撮影実習セミナー報告
定禅寺通り・西公園にて開催

通算第８回目の撮影実習セミナーを１１月１５日春に続き定禅寺通りと西公園公園周辺にて開催しました。午前中撮影し、午後市民会館「視聴覚室」で一人５点作品選考と竹内会長に依る講評を受けました。

今回は２０名の募集に対し１１名の参加者で少ない人数でした。デジタルでの参加者９名。フィルムは竹内会長も含め３名となったので、デジタルと比較して写せる枚数の少ないフィルム参加者は、従来一人３６枚撮り１本を２本に変更。

天気は曇りでしたが雨は降らず、紅葉も赤、黄、橙緑と色々混じり合い、却って綺麗でした。西公園では幼稚園児も遊具で楽しそうに遊んでいる姿を写せた。中には仙台城の五色沼まで出掛けて鯉や水鳥の素敵な作品を撮った方もいた。

昼食時にフィルムは吉田カメラに用事がある参加者の星朝子さんが運搬役を引き受け現像。デジタルは渡邊副会長と進藤幹事長で撮影者と確認しながら５点を選考し幹事長のＰＣに保存。星さんが持参したポジは丸山幹事が用意したライトボックス、ルーペ、マウント、ハサミを利用して自分で５点を選考し提出。其々プロジェクターを利用してスクリーンに投影し講評を受けた。新緑の時も良かったが紅葉は華やかでより綺麗、ホームページに掲載したのでご覧下さい。

阿部和之会員作品

第８回定時総会開催案内

現在新年度に向け準備しておりますが、総会の日程が決まりました。平成２６年１月１９日（日）午後２時～５時３０分まで、場所は戦災復興記念館４階研修室です。会員皆様のご参加をお願いしたいのでご予定を組む様お願い致します。

事業計画（案）も役員一同新しい企画を含め考えております。また、総会当日恒例となっておりますスライド＆トークセミナーも予定しており、井村淳先生のご了解を得ました。日本の自然風景とケニアなどの野生動物を予定。どちらも大きく「野生」をテーマにして狙った作品とのことです。

「乞うご期待」。総会出欠も含め往復はがきにて別途ご案内致します。

お知らせ

★写真コンテスト
上位入選者
宮城県芸術祭写真
公募展宮城県知事賞
鹿野和之「天空の朝焼け」
東北二科展
キャノン賞
青木威世男「春の兆し」
★写真展「私の原風景」
出展作品を事務局の東北カラーデュープにて展示していましたが、終了しましたので、出展された会員さんは展示作品とサンプルプリントを事務局まで各自お引き取り方お願い致します。
★新規入会会員紹介
宮城県仙台市　佐藤　栄子
宮城県仙台市　富田　トキ子
★平成２６年度年会費お支払いのお願い
協会の各種事業や「東風季報」の発行・郵送等は会員皆様の年会費にて運営しております。就きましては新年度年会費（３０００円）を左記口座のどちらかにお支払い下さい。振込に要する手数料のご負担もお願いします。
（振込先口座）
●七十七銀行　旭ヶ丘支店
２８０-５２７２５９９
東北風景写真家協会
●ゆうちょ銀行
１８１９０-１４３８８８８１
トウホクフウケイシャシンカキョウカイ

氷結のたろし滝　花巻市石鳥谷

「たろし」とは宮城県北部から岩手県の方言で「ツララ」のこと、氷柱の滝の意味です、この滝は寒さが厳しくなった頃から「ちょろちょろ」と流れていた水が凍り出来た巨大な氷柱なのです。

この地方では毎年2月の第2日曜日に、氷柱の大きさでその年の作柄予測の神事が執り行われます。

氷柱は高さ15メートル、直径5メートル前後になると豊作と占われます、昨年は基準を超える圧巻な出来栄えでした、この氷柱はオーバーハングになった大岩に出来ている為、裏側からも撮影ができ洞窟の天井からも多数の氷柱が下がり絶好な被写体となっています。

アクセス：東北自動車道花巻ＩＣより石鳥谷方面に向かい、高速道のガードを過ぎてファミリーマート（廃業）前信号たろし滝の看板を左折葛丸ダム方面に山道を20分位です。乗用車数台駐車スペースあり、約3キロ手前にも氷結の一の滝がある。

注意事項：通路も氷結しているのでアイゼンの使用をお勧めします。

（小野寺正志記）

写真美術館めぐり　リコーフォトギャラリー RINGCUBUE

日本の超一等地・銀座4丁目交差点の角にある、RICOH・RINGCUBE8階にある「リコーフォトギャラリーRINGCUBE」が昨年4月にリニアールオープンした。

同ギャラリーはさらなる写真の可能性を広げるために「ここだけでしか見られない」「ここだけしか入手できない」「ここだけでしか知りえない」といった価値の創造をはかり、寛げる空間とした、と謳っている通り優雅な雰囲気のなかで作品の鑑賞と、ゆっくりと寛ぐことが出来る空間は別世界の趣が漂っている。

有料ギャラリーゾーン「A.W.P」写真家のテラウチマサト氏がプロデュースを担当、希少性の高い選りすぐりの作品を、ラウンジスタイルの「A.W.P」ギャラリーゾーンでゆっくり鑑賞できる。

名称は世界中の写真を巡り、さまざまなコンテンツを楽しみながら知識を高め、ときには驚きも得られる場所にしたいという思いから「Around the World photo」「Amusement」「Wisdom」「Wonder」「Place」といったコンセプトワールドにちなんで命名している。

入場料500円、年間パスポート3，500円　ペンタックスリコーファミリークラブ会員は無料ホールのフリースペースには無料展示コーナーもある。

9階にはペンタックスリコーカメラのショールームがあり、是非訪れて下さい、究極の優雅な空間が待っています。

（竹内　正）

デジカメのチョイ雑学

藤枝　克治

デジタル一眼で撮影していると、私のような者にも色々と質問してくる人がいる。

当初、私ごときレベルの輩に難しい質問をしないでくれと思っていた。が、竹内会長曰く「東北風景写真家協会」の会員はハイレベルの方から、デジカメを始めて間もない方まで幅が広いから丁寧に教えてやりなさい。

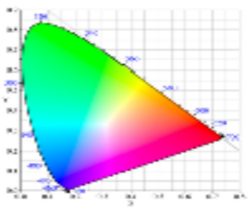
そこで身の程も弁えずにデジタルカメラの雑学を。

色空間「sRGB」と「AdobeRGB」

先日秦達夫先生のセミナーで質疑応答の時間、先生の写真データは「AdobeRGB」で撮ってますが・・・とハイレベルの方が質問されました。

デジタル一眼で撮っていると「sRGB」と「AdobeRGB」の2種類の色空間があることに気付きますよね。色空間とは何だ?私もよく解りません。

CIE色度図のグラフを見ても「へー」と思うくらい。小難しい理論を読んでも理解し難い。



私は「sRGB」で撮っています。

とは言っても、「sRGB」よりも広い領域の色空間を持っているのが「AdobeRGB」です。あとでフォトショップ等を使ってレします。

特別支障はな～んもありません。そしてJPEG撮影（クオリティは最高レベル）RAW撮影もあまりやりません。（その理由は別途）

「sRGB」で撮ることをお勧めタッチするなら「AdobeRGB」が色の情報は多いです。

プロが使うわけです。より上のレベルを目指す人はチャレンジしてみてください。

しかし、レタッチはやり方を間違えると「なにこれ、こんな色あり?」となることもあります。

PCやモニターの設定、プリンターの設定、フォトショップ等のアプリのソフトの設定も全部「AdobeRGB」に統一させなければなりません。

そして「AdobeRGB」の表示が出来るモニターがまだ少ないです。

モニターが無ければ勘を頼りにやるしかないし、お金もかかるし、操作が面倒くさいよ。

RAW撮影とJPEG撮影

10年ほど前。デジカメを使いだして4，5年経った頃の話。

「RAW撮影だのJPEG撮影だの、ぐだぐだいう前に写真の腕を上げろ。銀塩でもデジカメでも写真の基本は同じだ」とある人から忠告された。

RAW撮影にこだわり過ぎていたきらいがあった私は、それ以来JPEG撮影をメインにしている。

当時はメモリーの容量が少なくて、コンパクトフラッシュメモリー（CF）で1～2Gの時代。

RAW撮影はメモリーの容量が喰うので、ひたすらJPEG撮影に邁進した。腕の方は上達しなかったが。

今はメモリーの容量も飛躍的に伸びているので、RAW撮影のメリットを清水哲朗先生の本から

①現像しない状態でデータを保存できる。

②撮影時にイメージに応じた絵作りが出来る。

③撮影後に露出補正が行えるので、万が一の時保険になる。

④現像ソフトを変えると、違うテイストに現像できる。

⑤新しい現像ソフトが出来ると今よりよい現像が出来る。

やっぱりRAW撮影がお勧めかな。

この本は2007年版で一寸古いので、お買い求めの人はネットのアマゾンから購入すると早いですよ。在庫有りとなってます。

こんな話あんな話第二三話　写真を楽しむことって何？

今回のコラムは、私の独断と偏見かも知れないし、古臭い考え方かもしれません。でも不器用な私はその考え方を変えられないのです。また変えるつもりはありません。

もし、違う意見、または良い考えがあったら、お教えいただきたいと思います。

先日、新しい写真クラブの発足会がありまして、講師として招かれました。「写真の楽しみ方」というテーマでの話をしてほしいとの要望でした。そこでテーマを大きく二つのことに分けてお話をしました。ひとつは撮影用カメラについてです（全くもって私の持論ですが・・）

「写真を楽しむ」ということについての第一は「カメラ」です。今はデジタルカメラが全盛で機種も機能もデザインも、はたまた価格まで、どんな要望にも答えられるラインナップが揃っています。今まで出来なかった機能が、いまやあたりまえのように搭載されています。古臭い私は、そんなことも知らずにいると、恥ずかしい思いをしてしまいます。でもその機能って必要なの？という、疑問も湧いてきます。「写真を楽しむ」ということは、カメラの機能を駆使して、自分の納得のいく写真を撮影することだと思います。デジタルカメラでもフイルムカメラでも関係ありません。感動の一瞬を写し取ることです。カメラの品評会ではありません。高機能なカメラも使いこなせば面白いでしょうが、所詮「道具」なのです。

どこの写真展に行っても、すばらしい写真を展示していますが、その写真を撮影した「カメラ」は展示しておりません。

確かに高機能なカメラはいざという時に、使いこなせばストレスの無い撮影が可能です。説明書もろくに読んでなく、その使い方も理解していない方に、そこまでの高機能なカメラは必要なのかどうかです。カメラメーカーの高機能化・高画素化に踊らされ、高い支出を強いられているのです。

もちろん「写真」も趣味の世界ですから、最終的には自己満足の世界です。高機能なカメラを使って、自分好みの写真を撮ることも自己満足の世界です。誰にも迷惑をかけていません。自分でお金を払って、自分の時間を割いて、自分の満足を満たす、趣味の世界とはそういうものです。だからこそ、自分の写真に対する気持ちはしっかりと持つべきだと思います。

撮影場所での安易な妥協や共感は無意味です。必要なのは自分自身の拘り感と偏屈です。普段は人当たりの良い人間でも、いざ写真を撮るときは「変人」になっても良いじゃありませんか。自分の写真を撮り、楽しむためには。そして最終的にはその写真を見てくれた人に少しでも「感動」を感じてもらえたら・・・ちょっとは自分をほめられる。なんて・・・

次号では「写真を楽しむこと」のもう、ひとつについて書きます。

（二〇一三年十二月　丸山慎一）

編集後記

毎号この欄で、会員の皆さんに投稿、寄稿をお願いしております。その他、会に対するご意見、ご要望ともございましたら会報担当幹事にこだわることなく、身近にいる幹事にお寄せいただければ幸甚です。

今回、コラム欄に日頃デジカメに関して、聞かれることを私の雑学として紹介させていただきました。

スペースが許せば、2回目、3回目と載せていきますが、ご意見まってます。